

日銀の視点

3月、県が第2次総合計画とともに「いばらき幸福度指標」を発表した。政策課題の明確化などが目的であり、順位に一喜一憂すべきものではないが、総合順位は47都道府県中9位とのことだ。

個人的には、着任以降、本県への理解を深めたいと考えて、さまざまな統計をフォロワーしてきた中、今回県により「幸福度」の観点から設定された38指標の一つ一つを興味深く拝見した。以下、経済に

日銀水戸事務所長 上野 淳

県の幸福度指標に思う

関わりの深いものを中心に、感じたことを書き記したい。まず、産業振興に関する指標（県民所得、工場立地件数など）が全国の中で上位となっていることは、イメージ通りだ。首都圏からの近さ、交

指標（国内旅行者数、外国人宿泊者数）は、中位から下位となっている。個人的な経験では、東京生活中は観光地としての茨城県の魅力を見聞きする機会がほとんどなかったため、PRの余地はありそう

いアジアの人々のさらなる取り込みなどは考えられよう。環境保全に関する指標の一つであるCO₂排出量は、下位となっている。臨海部を中心

最後に、「子どものチャレンジ率」や、国際交流に関する指標が取り上げられていることにも着目したい。今回示された数値のみで本県の立ち位置を判断することは難しいが、足元の国際情勢もあって社会・経済のさらなる大きな変化の可能性も否定できない

通網の充実、平地の多さなどの強みを生かし、産業がバランス良く発展してきた上、企業誘致など、将来に向け関係者がさらなる努力を重ねている現状の現れであろう。一方で、観光振興に関する

だ。魅力さえ伝われば、首都圏からの近さがここでも強みになろう。外国人については、一生に1〜2度限りの来日時

り、本県にとって重大な課題であることを改めて認識させられる。この難題への対処を

今後の産業成長への梃子とするため、産官学などの関係者が連携していくことが極めて重要と思われる。

（次回は6月11日掲載）